



露地ショウガにおける雑草体系防除

表1 雑草体系防除の内容（2011）

区・土壌くん蒸剤名	土壌くん蒸		除草剤・植付直後 土壌表面散布			除草剤・生育期 雑草茎葉散布			手取り除草	土寄せ・ 敷きワラ
	処理日	使用量	薬剤名	処理日	使用量	薬剤名	処理日	使用量		
ダゾメット粉粒剤		60kg/10a				ナブ乳剤	5月20日	150ml/10a	6月14日、7月 25日に実施	土寄せ
ヨーカヒューム	3月	15g/m ²	トレファ	4月	6kg/10a				8月中旬以降 は適宜実施	6月24日
ダゾメット粉粒剤・ クロルピクリン併用	8日	30kg/10a	ノサイド	12日						敷きワラ
ソイリーン		10錠/1m ²	粒剤2.5							6月28日
		30L/10a				なし			8月中旬以 降適宜実施	
無処理	なし		なし							

注) ダゾメット粉粒剤の使用量は、根茎腐敗病での農薬登録30～60kg/10aを適用した。

表2 体系防除による雑草の発生量（地上部乾物重）（2011）（g/m²）

調査日	草種	5月18日 （ショウガ萌芽時）				6月14日 （土寄せ・敷きワラ前）			
		イネ科	カヤツリ グサ科	広葉	合計	イネ科	カヤツリ グサ科	広葉	合計
ダゾメット粉粒剤		0.3	0.1	0.7	1.2	0	4.6	223.4	228.0
ヨーカヒューム		6.9	0	0.4	7.2	6.2	0.6	27.3	34.2
ダゾメット粉粒剤・ クロルピクリン併用		0	0	t	t	1.1	0	1.9	3.1
ソイリーン		0	t	0.5	0.5	0.8	7.1	11.5	19.5
無処理		59.7	0.1	117.2	176.9	235.2	t	823.1	1,058.3

注1) 試験ほ場：所内露地ほ場 2) 乾物重：地上部を80℃で72時間乾燥させた重量。tは0.1g未満を示す。 3) 土壌くん蒸：処理日・2011年3月8日 被覆期間・2011年3月8日～3月22日 4) 植付：2011年4月12日 長繊維不織布被覆期間・2011年4月12日～5月17日 5) ラウンドのため合計値は一致しない。

写真：2011年6月14日撮影



無処理区



ダゾメット粉粒剤区



ヨーカヒューム区



ダゾメット・クロルピクリン併用区



ソイリーン区

土壌くん蒸剤の臭化メチル剤は、2012年末をもって完全に使用できなくなります。そこで当センターでは、臭化メチル剤全廃後のショウガの安定生産のため、さまざまな研究に取り組んできました。今回は、雑草の体系防除の効果について報告します。

雑草体系防除は表1により実施しました。試験ほ場にはあらかじめ雑草種子を播種し、イネ科や、広葉雑草が甚しく発生するほ場条件を設定し試験を行いました。

ショウガ萌芽期の雑草の発生量は、ヨーカヒューム区でわずかに多いものの、全ての処理区で無処理区より著しく少なく、高い防除効果が認められました。

特に、ダゾメット粉粒剤・クロルピクリ

ン併用区とソイリーン区にはイネ科雑草の発生がなく、ナブ乳剤の処理は不要でした。その後、広葉雑草が多いダゾメット粉粒剤区を除いた各処理区では、土寄せ・敷きワラ時期まで、除草効果の持続が確認できました（表1、2、写真）。

現在も、土壌くん蒸剤の草種別除草効果などを継続して調査しており、これらの結果も加えて脱臭化メチル栽培マニュアルとしてまとめる予定です。

なお、本研究は農水省委託研究「臭化メチル剤から完全に脱却した産地適合型栽培マニュアルの開発」の中で実施しています。

（営農システム担当 福井淑子

088-863-4918)